

医学教育分野別評価  
大分大学医学部医学科  
年次報告書  
2023 年度



国立大学法人

大分大学

## 医学教育分野別評価 大分大学医学部医学科 年次報告書 2023年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35

### はじめに

本学医学部医学科は、令和3年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023（令和5）年2月1日より7年間の認定を受けた。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35を踏まえ、2022（令和4）年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022（令和4）年1月から本報告書提出年度である2023（令和5）年3月までを対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35の転記は省略した。

## 1. 使命と学修成果

領域1における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、令和5年4月より大分大学医学部に先進医療科学科が開設されることに伴い、第1回医学教育統括会議や第2回医学教育企画開発委員会において協議し、基本理念を見直した。

また、教育カリキュラムの立案を行う「医学教育企画開発委員会」の構成員を見直し、令和5年度から学生は全学年の代議員2名ずつを構成員とすることとした。

### 1.1 使命

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- 学部の使命を明示しなくてはならない。（B 1.1.1）
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を示さなくてはならない。（B 1.1.2）
- 使命のなかに、以下の資質・能力を持つ医師を養成するための目的と教育指針の概略を定めなくてはならない。
  - 学部教育としての専門的実践力（B 1.1.3）
  - 将来さまざまな医療の専門領域に進むための適切な基本（B 1.1.4）
  - 医師として定められた役割を担う能力（B 1.1.5）

- 卒後の教育への準備 (B 1.1.6)
- 生涯学習への継続 (B 1.1.7)
- 使命に社会の保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、およびその他の社会的責任を包含しなくてはならない。(B 1.1.8)

### 特記すべき良い点 (特色)

- なし

### 改善のための助言

- 「大分大学医学部の理念」、「大分大学医学部医学科の教育理念と目的」、「大分大学医学部卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」の位置づけや関係性をより明確にすべきである。
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に対して、学部の使命をさらに周知し、理解を求めるべきである。

### 関連する教育活動, 改善内容や今後の計画

- 令和5年4月より大分大学医学部に先進医療科学科が開設されたことに伴い、第1回医学教育統括会議(令和5年2月28日開催)及び第2回医学教育企画開発委員会(令和5年2月15日開催)における協議の結果、以下文章(下線)に示す点で改定が行われた。

(改定前)

本学部は、最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた医療人及び研究者を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とする。さらに、豊かな人間性と高い倫理観を備えた医療人を育成し、先端医療の開発と安心・安全な医療の提供をとおして、地域社会の福祉に貢献する。

(改定後)

本学部は、最新の学術を教授・研究し、高度の医学、看護学及び医療科学の知識と技術を身につけ、さらに豊かな教養と高い倫理観を備えた医療人及び研究者を育成し、もって医学、看護学及び医療科学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

- 医学部理念を医学部ホームページ、講義室等に掲示し学生・教員等に周知するとと

もに、さらなる周知を徹底していく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料1 令和4年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料2 令和4年度第1回医学部医学教育統括会議（MEDIC）議事概要
- ・資料3 大分大学医学部の理念（講義室掲示物）
- ・資料4 大分大学医学部ホームページ

## **1.4 使命と成果策定への参画**

### **基本的水準：部分的適合**

医学部は、

- ・ 使命と学修成果の策定には、教育に関わる主要な構成者が参画しなければならない。（B 1.4.1）

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための助言**

- ・使命と目標とする学修成果について見直しを行う際には、その作成段階から学生を含む教育に関わる主要な構成者が積極的に参画すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教育カリキュラムの立案を行う「医学教育企画開発委員会」の構成については、これまで、「医学科の学生 若干人」として4年生と5年生の代議員4名が参加していたが、委員会内規を見直し、令和5年度からは、「医学科の1年生から6年生までの学生 各学年2人」とし、全学年の代議員を構成員とすることとした。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料1 令和4年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料5 大分大学医学部医学教育企画開発委員会内規

## 2. 教育プログラム

領域2における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学生の学修意欲を刺激するために、学生同士でグループ学修への取り組みを評価させる「ピア評価」を採り入れ、この取り組みを教育医長会議で報告し、各診療科で共有した。

また、主要な診療科での臨床実習期間を確保するために、臨床医学部会で検討を開始するとともに、各診療科の実習でシミュレーション教育を促すために、本学スキルスラボが所有するシミュレータの情報を教育医長会議で周知した。

医学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）に関する学修目標等を示した「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に伴い、令和6年（2024年）度の入学者から導入に向けたカリキュラム改革を行っていくことが今後の課題である。

### 2.1 プログラムの構成

#### **基本的水準：適合**

医学部は、

- カリキュラムを明確にしなければならない。（B 2.1.1）
- 学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法を採用しなければならない。（B 2.1.2）
- カリキュラムは平等の原則に基づいて提供されなければならない。（B 2.1.3）

#### **特記すべき良い点（特色）**

- すべての修学期間において医学・医療英語教育を実施している。

#### **改善のための助言**

- 能動的学修の要素をさらに取り入れる等、学修意欲を刺激し、準備を促すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

3年次で実施する総合内科・総合診療科のコースでは、以前からPBLチュートリアル形式でのグループ学修を採り入れていた。しかし、積極的に取り組む学生の評価が十分でない、学修態度に問題がある学生がいる、などの課題があった。そこで、学生の学修意欲を刺激するために、学生同士でグループ学修への取り組みを評価させる「ピア評価」を採り入れた。また、この取り組みを教育医長会議で報告し、各診療科で共有した。他の科目・コースでの実施も検討を行う。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料6 「総合内科・総合診療科3年次講義」紹介スライド
- ・資料7 令和4年度第2回教育医長会議議事概要

## **2.2 科学的方法**

### **基本的水準：適合**

医学部は、

- ・カリキュラムを通して以下を教育しなくてはならない。
  - ・分析的で批判的思考を含む、科学的手法の原理 (B 2.2.1)
  - ・医学研究の手法 (B 2.2.2)
  - ・EBM (科学的根拠に基づく医学) (B 2.2.3)

### **特記すべき良い点 (特色)**

- ・4年次で約3ヶ月間の「研究室配属」によって学生の研究マインドを涵養している。
- ・臨床薬理学の教育で臨床実習前のEBM教育が充実していることは評価できる。

### **改善のための助言**

- ・臨床実習の現場において、EBM教育を体系的に実施すべきである。

### **改善のための示唆**

- ・生涯学習能力の修得にかかる評価を確実に実施することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

4年次の研究室配属での研究成果や臨床実習で診療チームの一員として関わった症例などの学会発表を推進することとした。そのための経費や就学上の配慮を大学として行う方針を確認した。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料8 令和4年度第1回教育医長会議議事概要

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 臨床医学について、学生が以下を確実に実践できるようにカリキュラムを定め実践しなければならない。
  - 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得 (B 2.5.1)
  - 臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つこと (B 2.5.2)
  - 健康増進と予防医学の体験 (B 2.5.3)
- 主要な診療科で学修する時間を定めなくてはならない。 (B 2.5.4)
- 患者安全に配慮した臨床実習を構築しなくてはならない。 (B 2.5.5)

### **特記すべき良い点（特色）**

- 全員が予防医学を体験できるプログラムが実施されている。
- 職員に対して実施している医療安全管理セミナーを学生にも受講させ、最新の医療安全に関連する情報を提供し、教育している。

### **改善のための助言**

- 主要な診療科で十分な臨床実習期間を確保すべきである。
- 学生による医行為の実施状況を把握し、臨床技能修得の機会を十分に確保すべきである。
- 診療参加型臨床実習を充実させるために、全診療科において、学生によるカルテ記載を確実に行うべきである。
- シミュレーション教育を充実させて、より患者安全に配慮した臨床実習を構築すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

主要な診療科での臨床実習期間を確保するために、他の教育カリキュラムとの調整が必要となるため、臨床医学部会で検討を開始した。

また、各診療科の実習でシミュレーション教育を促すために、本学スキルラボが所有するシミュレータの情報を教育医長会議で周知した。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料 9 令和4年度第1回臨床医学部会議事概要

- ・資料 8 令和 4 年度第 1 回教育医長会議議事概要
- ・資料 10 令和 4 年度第 3 回教育医長会議議事概要

## 2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

### **質的向上のための水準：部分的適合**

医学部は、カリキュラムで以下のことを確実に実施すべきである。

- ・ 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合 (Q 2.6.1)
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合 (Q 2.6.2)
- ・ 教育プログラムとして、中核となる必修科目だけでなく、選択科目も、必修科目との配分を考慮して設定すること (Q 2.6.3)
- ・ 補完医療との接点を持つこと (Q 2.6.4)

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ 第三修学期に臓器別コースとして、統合型の 15 コースを設置している。

### **改善のための示唆**

- ・ カリキュラムの水平的、垂直的統合をより推進し、実質的なものとするのが望まれる。

### **関連する教育活動，改善内容や今後の計画**

基礎医学部会において基礎科目の各教科科目間の水平統合について議論を開始する。臨床医学部会と教育医長会議において、臓器別コース内の垂直統合の維持と更なる推進について周知する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・ 資料 9 令和 4 年度第 1 回臨床医学部会議事概要
- ・ 資料 1 令和 4 年度第 2 回医学教育企画開発委員会議事概要



## 2.7 教育プログラム管理

### **基本的水準：部分的適合**

医学部は、

- 学修成果を達成するために、学長・医学部長など教育の責任者の下で、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置しなくてはならない。(B 2.7.1)
- カリキュラム委員会の構成委員には、教員と学生の代表を含まなくてはならない。(B 2.7.2)

### **特記すべき良い点（特色）**

- なし

### **改善のための助言**

- 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にし、その委員会に学生の代表を含むべきである。

### **関連する教育活動，改善内容や今後の計画**

教育カリキュラムの立案を行うのは医学教育企画開発委員会であり、その委員会にはこれまで医学科4年生および5年生の代表の2学年が参加していたが、1-6年生の代表を含むよう、規約を改訂した。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料1 令和4年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要
- 資料5 大分大学医学部医学教育企画開発委員会内規

### **質的向上のための水準：部分的適合**

医学部は、

- カリキュラム委員会を中心にして、教育カリキュラムの改善を計画し、実施すべきである。(Q 2.7.1)
- カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むべきである。(Q 2.7.2)

### **特記すべき良い点（特色）**

- なし

## 改善のための示唆

- ・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育カリキュラムの立案・実施を行う委員会である医学教育企画開発委員会に教育専門家を含むよう検討を開始した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料1 令和4年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要

# 3. 学生の評価

領域3の改善のためのアドバイスや示唆を受け、技能・態度領域における信頼性と妥当性の高い評価ツールの運用方法について、医学教育評価委員会で検討を開始した。多面的な学習評価を通じて学生の学習成果を集約し、それを教育医長会議で共有することにより、さらなる改善を進めることが今後の課題である。

## 3.1 評価方法

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・学生の評価について、原理、方法および実施を明確にし、開示しなくてはならない。開示すべき内容には、合格基準、進級基準、および追再試の回数が含まれる。(B 3.1.1)
- ・知識、技能および態度を含む評価を確実に実施しなくてはならない。(B 3.1.2)
- ・さまざまな評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用しなくてはならない。(B 3.1.3)
- ・評価方法および結果に利益相反が生じないようにしなくてはならない。(B 3.1.4)
- ・評価が外部の専門家によって精密に吟味されなくてはならない。(B 3.1.5)
- ・評価結果に対して疑義申し立て制度を用いなければならない。(B 3.1.6)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・「大分大学教育マネジメント機構」、「教学マネジメント室」により、成績分布に偏り

がある科目について評価の妥当性を検証している。

### **改善のための助言**

- ・すべての科目について、シラバスに評価方法を確実に記載すべきである。
- ・「回復試験」を含めた履修修了の認定の方法を規則に定め、適切な方法で開示すべきである。
- ・知識、技能および態度の領域に合わせた適切な評価を、それぞれ確実に行うべきである。
- ・評価が教育と評価を担当する当事者以外の専門家（学内外を問わない）によって精密に吟味されるべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

作成したシラバス（案）を教務委員会でピア・レビューする体制を強化することで全科目の評価法をシラバス内に確実に記載することとした。

履修修了の認定の方法と開示に関する条項の追加と整理を開始した。

学習者の知識、技能、態度評価の中で、技能・態度領域の評価はまだ十分適切に行われていないので、その検証と改善を医学教育評価委員会で開始する。

医学教育評価委員会の委員に、大分大学教育学部の教育専門家などの外部の専門家を加えることを検討する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 11 令和 4 年度第 15 回教務委員会議事概要
- ・資料 12 令和 4 年度第 15 回教務委員会 資料 9 シラバスチェック割振

### **質的向上のための水準：部分的適合**

医学部は、

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示すべきである。（Q 3.1.1）
- ・ 必要に合わせて新しい評価方法を導入すべきである。（Q 3.1.2）
- ・ 外部評価者の活用を進めるべきである。（Q 3.1.3）

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・知識、技能、態度のすべての領域の評価について、信頼性と妥当性を確実に検証することが望まれる。

- ・ポートフォリオ評価を効果的なものとなるように改善することが望まれる。
- ・mini-CEX、360 度評価などの新しい評価法をより積極的に活用することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

知識、技能、態度評価の中で、技能・態度領域の評価は現在まだ十分ではなく、ポートフォリオ、シミュレーション、mini-CEX など、より技能・態度領域における信頼性と妥当性の高い評価を取り入れ、また運用方法の改善をすることを医学教育評価委員会で検討する。

ポートフォリオの構成要素を見直し、学生の知識、技能、態度を全面的に反映できるように協議を開始する。また学生自身がポートフォリオ評価のプロセスに参加できるように意見聴取を始める。

CC EPOC の入力状況により、mini-CEX の実施状況を把握し、実習において各人が 3 回以上行えるよう、各診療科の教育医長会議を通して実施状況を共有し、改善を進めている。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 8 令和 4 年度第 1 回教育医長会議議事概要

## **3.2 評価と学修との関連**

### **質的向上のための水準：部分的適合**

医学部は、

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム（教育）単位ごとに試験の回数と方法（特性）を適切に定めるべきである。（Q 3.2.1）
- ・ 学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うべきである。（Q 3.2.2）

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・すべての科目において、試験後に問題を公開し、解説などによってフィードバックを行うことが望まれる。
- ・ポートフォリオなどを活用し、臨床実習におけるフィードバックを充実させることが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前回調査で試験後に解説を実施していなかったすべての教科の責任者に対して、試験後の解説を行うよう教務委員会を経て周知した。

ポートフォリオの CC EPOC の入力状況を把握し、教育医長会議を通じて各診療科と定期的な情報共有を開始した。

さらに、臨床実習前の専門基礎科目などでもプロフェッショナリズムなど、態度・技能領域を有するアウトカムが含まれる領域での、ポートフォリオ等の評価が導入できないか検討する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 13 令和 4 年度第 17 回教務委員会議事概要
- ・資料 8 令和 4 年度第 1 回教育医長会議議事概要
- ・資料 10 令和 4 年度第 3 回教育医長会議議事概要

# 4. 学 生

領域 4 における、「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、「医学教育企画開発委員会」の構成については、これまで、「医学科の学生 若干人」として 4 年生と 5 年生の代議員 4 名が参加していたが、委員会内規を見直し、令和 5 年度からは、「医学科の 1 年生から 6 年生までの学生 各学年 2 人」とし、全学年の代議員を構成員とすることとし、また、指導教員の履修指導用成績資料を各教員に送付し、指導学生との面談時の記録を年に 1 度以上実施し、面談記録を教務情報システムに入力するようにした。

## 4.1 入学方針と入学選抜

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べるべきである。(Q 4.1.1)
- アドミッション・ポリシー（入学方針）を定期的に見直すべきである。(Q 4.1.2)
- 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用すべきである。(Q 4.1.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を、受験生に公開することが望まれる。

### **関連する教育活動，改善内容や今後の計画**

入試委員会にて、「入学決定に対する疑義申し立て制度」について検討を開始した。全学共通での変更が必要であり、継続審議することとなった。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 14 令和 4 年度第 9 回入試委員会議事概要

## **4.2 学生の受け入れ**

### **基本的水準：適合**

医学部は、

- ・教育プログラムの全段階における定員と関連づけ、受け入れ数を明確にしなければならぬ。(B 4.2.1)

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための助言**

- ・なし

### **関連する教育活動，改善内容や今後の計画**

地域医療を担う医師確保用の入学定員確保のため、入学定員数は毎年、文部科学省に地域枠に係る臨時定員増の申請を行っている。今後、臨時定員増がなくなった時の地域医療を担う医師確保用の入学定員確保に必要な措置を検討する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 15 令和 5 年度（2023 年度）入学者選抜要項

### **質的向上のための水準：適合**

医学部は、

- 他の教育関係者とも協議して入学者の数と資質を定期的に見直すべきである。そして、地域や社会からの健康に対する要請に合うように調整すべきである。(Q 4.2.1)

#### **特記すべき良い点（特色）**

- 地域や社会からの要請に基づいて、地域枠・地元出身者枠を調整している。

#### **改善のための示唆**

- なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2021 年度から一般選抜に地元出身者枠を新設したが、その効果について、今後、検証していく。また、一般入学者選抜（一般枠・地元出身者枠）、総合型入学者選抜（一般枠・地域枠）、第2年次編入学選抜のそれぞれの入学者について入学後の成績などについて、今後、医学部教育情報分析室で分析し、その結果をもとに、選抜試験の方法について医学部入試委員会を中心に検討していく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- なし

### **4.3 学生のカウンセリングと支援**

#### **基本的水準：適合**

医学部および大学は、

- 学生を対象とした学修支援やカウンセリングの制度を設けなければならない。(B 4.3.1)
- 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する仕組みを提供しなければならない。(B 4.3.2)
- 学生の支援に必要な資源を配分しなければならない。(B 4.3.3)
- カウンセリングと支援に関する守秘を保障しなければならない。(B 4.3.4)

#### **特記すべき良い点（特色）**

- なし

## 改善のための助言

- ・チューター制度をさらに活性化させ、成績不振学生への支援を充実させるべきである。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

指導教員に履修指導用成績資料を送付し、指導学生との面談時の記録を年に1度以上実施し、面談記録を教務情報システムに入力するシステムを構築した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 16 指導教員の履修指導について

## 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・学生の学修上の進捗に基づいて学修支援を行うべきである。(Q 4.3.1)
- ・学修支援やカウンセリングには、キャリアガイダンスとプランニングも含めるべきである。(Q 4.3.2)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

## 改善のための示唆

- ・チューターによるカウンセリング等に、キャリアガイダンスとプランニングを含めることが望まれる。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

指導教員の履修指導用成績資料を送付し、指導学生との面談時の記録を年に1度以上実施を行うようにした。この面談際に、カウンセリングやキャリアガイダンスが行われる予定である。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 16 指導教員の履修指導について



## 4.4 学生の参加

### **基本的水準：部分的適合**

医学部は、

- 学生が以下の事項を審議する委員会に学生の代表として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行しなければならない。
  - 使命の策定 (B 4.4.1)
  - 教育プログラムの策定 (B 4.4.2)
  - 教育プログラムの管理 (B 4.4.3)
  - 教育プログラムの評価 (B 4.4.4)
  - その他、学生に関する諸事項 (B 4.4.5)

### **特記すべき良い点（特色）**

- なし

### **改善のための助言**

- 使命と教育プログラムの策定、学生に関する諸事項について審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教育プログラムの策定は「医学教育企画開発委員会」が行っている。「医学教育企画開発委員会」の構成については、これまで、「医学科の学生 若干人」として4年生と5年生の代議員4名が参加していたが、委員会内規を見直し、令和5年度からは、「医学科の1年生から6年生までの学生 各学年2人」とし、全学年の代議員を構成員とすることとした。その他、学生に関する諸事項に関する委員会への学生の参画について、今後検討する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料1 令和4年度第2回教育企画開発委員会議事概要
- 資料5 大分大学医学部医学教育企画開発委員会内規

### **質的向上のための水準：適合**

医学部は、

- 学生の活動と学生組織を奨励するべきである。(Q 4.4.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・「ボランティア支援室」や「大分大学生き生き2プロジェクト“分大 Switch On”」等を通じて、学生のボランティア活動を支援している。

### 改善のための示唆

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各サークルの顧問教員を医学部の教授あるいは准教授を持ってこれに充てることになっている「大分大学医学部 サークル協議会規約」を徹底し、学生が行う活動、学生組織に対して、支援を継続的に行なった。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 17 大分大学医学部 サークル協議会規約

## 5. 教 員

領域5における「改善のための助言」を受け、個々の教員がカリキュラム全体を把握できるようなFD開催について、検討を行うこととした。また、現状の教育へのエフォートに関する実態調査についても、実施を検討することとした。すべての教員の教育能力を向上させることが今後の課題である。

### 5.1 募集と選抜方針

#### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 教員の募集および選抜の方針において、以下の評価基準を考慮すべきである。
  - ・ その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性（Q 5.1.1）
  - ・ 経済的事項（Q 5.1.2）

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域課題の解決と国際貢献のための講座開設や教員募集と選抜を行っている。

### 改善のための示唆

- ・なし

### **関連する教育活動，改善内容や今後の計画**

教員の募集に際して、「大分大学医学部の理念、教育目的及び目標」に合致した人材が正しく選抜されるべく、募集要項等にその旨がきちんと明記され、さらに実際の選考過程においても、こうした点が重視されているかについて、点検を行う。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **5.2 教員の活動と能力開発**

### **基本的水準：部分的適合**

医学部は、

- 教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
  - 教育、研究、診療の職務間のバランスを考慮する。(B 5.2.1)
  - 教育、研究、診療の活動における学術的業績の認識を行う。(B 5.2.2)
  - 診療と研究の活動が教育活動に活用されている。(B 5.2.3)
  - 個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解しなければならない。(B 5.2.4)
  - 教員の研修、能力開発、支援、評価が含まれている。(B 5.2.5)

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・具体的に定められた基準に基づく教員の業績評価を実施している。

### **改善のための助言**

- ・すべての教員の教育能力を向上させるために、教員の能力開発に関する方針を策定し、履行すべきである。
- ・教員の職務や能力に合わせたFDを企画し、確実に受講させるべきである。
- ・各教員の教育へのエフォートについて、教育、研究、診療の職務間について医学部全体としてのバランスを考慮して決定すべきである。

### **関連する教育活動，改善内容や今後の計画**

教員の教育能力の向上を図るため、まずは新任教員を主な対象として、個々の教員がカリキュラム全体を理解するためのFD開催について、検討を行う。また、確実な受講のた

め、全体研修会の一環としての開催やオンデマンド受講などの方策についても、検討する。

教員の教育へのエフォートについて、研究・診療とのバランスを医学部全体として考慮するために、まずは現状における教育へのエフォートの実態について、調査を検討する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 6. 教育資源

領域 6 における、「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、スキルスラボで新規購入したシミュレータ等の設備を導入し、学生の課外活動施設に照明等の施設を設置した。臨床実習 Stage2 で学外実習 B を新設し、大学病院では経験できない疾患を学ぶ機会を設け、今後 Stage2 でも CC EPOC の入力を行い、経験症例の偏りがいないか検討していく。

国内外の交流については、大学間協定を結んでいるタイ王国マヒドン大学医学部から短期留学生を受け入れ、また、タイ王国マハーサーラカム大学と大学間協定を締結し、学術交流・学生交流を促進する環境を整えた。次年度以降は、より多くの協定校から、より多くの学部学生を短期留学生として受け入れる予定である。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- 教職員と学生のための施設・設備を十分に整備して、カリキュラムが適切に実施されることを保障しなければならない。(B 6.1.1)
- 教職員、学生、患者とその家族にとって安全な学修環境を確保しなければならない。(B 6.1.2)

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 24時間アクセスすることが可能な医学図書館が整備されている。

#### 改善のための助言

- ・ グループ学習室の拡充など、学修環境の整備をさらに進めるべきである。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

シミュレーション教育を充実させ、より患者安全に配慮した臨床実習を構築すべく、1年生の早期体験実習、OSCE 前やスキルスラボ実習で使用しているシミュレータ等の機器を増設した。

学生が課外活動をより円滑に行えるよう野田グラウンドに照明とバックネットを整備した。

学生の通学がより円滑になるよう挾間キャンパス内に新たな駐車場を整備した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 18 令和4年度第2回医学教育評価委員会議事概要
- ・資料 19 野田グラウンド整備関係
- ・資料 20 挾間キャンパス内駐車場増設

## 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・教育実践の発展に合わせて施設・設備を定期的に更新、改修、拡充し、学修環境を改善すべきである。(Q 6.1.1)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

## 改善のための示唆

- ・シミュレーション教育を推進するために必要な機器の導入や更新が望まれる。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

大学改革推進等補助金（ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業）に申請し、2023年度の共用試験の公的化に伴い、基本的臨床手技を学ぶためのシミュレータを整備した。学内の令和4年度学長戦略経費（教育改革推進プロジェクト）に「感染症医療人材養成のための実践的教育推進プロジェクト」申請し、呼吸音聴診シミュレータ等の設備を整備した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 21 新シミュレータ紹介資料
- ・資料 22 令和4年度学長戦略経費（教育改革推進プロジェクト）成果報告書

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学生が適切な臨床経験を積めるように以下の必要な資源を十分に確保しなければならない。
  - 患者数と疾患分類 (B 6.2.1)
  - 臨床実習施設 (B 6.2.2)
  - 学生の臨床実習の指導者 (B 6.2.3)

### **特記すべき良い点（特色）**

- 多くの医員・研修医が、屋根瓦方式の教育に関わっている。

### **改善のための助言**

- 学生が経験する患者数と疾患分類を把握し、必要に応じて学生が適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備すべきである。
- 臨床実習の学内外指導者のためのFDを広く実施すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生が経験する患者数と疾患分類を把握し、必要に応じて学生が適切な臨床経験を積めるように、臨床実習 Stage2 で臨床研修病院の2週間枠を学外実習 B として設定し、大学病院で経験できないことを体験できるようにした。CC EPOC への入力を確認し、その施設で学生が経験を積めているかどうか、把握し評価する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料 18 令和4年度第2回医学教育評価委員会議事概要

## 6.3 情報通信技術

### 基本的水準：適合

医学部は、

- 適切な情報通信技術の有効かつ倫理的な利用と、それを評価する方針を策定して履行しなければならない。(B 6.3.1)
- インターネットやその他の電子媒体へのアクセスを確保しなければならない。(B 6.3.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・情報通信技術に関する様々なシステムやアプリケーション等を有効に利用している。

### 改善のための助言

- ・安定したインターネットアクセスが確保できるよう、接続環境を整備すべきである。
- ・学生に対する情報セキュリティ教育を定期的かつ確実に実施すべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

基盤情報システム及び教育情報システムを更新するため、基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会を開催し、仕様書策定の方針の策定を開始した。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 23 令和4年度第5回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会  
議事概要

## 6.6 教育の交流

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・以下の方針を策定して履行しなければならない。
  - ・教職員と学生の交流を含め、国内外の他教育機関との協力（B 6.6.1）
  - ・履修単位の互換（B 6.6.2）

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

令和4年度は、本学と大学間協定を結んでいるタイ王国マヒドン大学医学部から短期留学生を受け入れ、研究室配属に参加させた。また、タイ王国マハーサーラカム大学と大学間協定を締結し、学術交流・学生交流を促進する環境を整えた。次年度以降は、より多くの協定校から、より多くの学部学生を短期留学生として受け入れる予定である。

また、令和4年度は、コロナ禍で3年間中断していた6年次生を対象にしたフィリピンのサンラザロ病院での臨床実習を再開するため、希望者の選定を実施した。次年度からは本実習を再開させる予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 24 大分大学医学部ホームページ
- ・資料 25 大分大学ホームページ  
<https://www.oita.ac.jp/category/koryukyotei.html>

## 7. プログラム評価

領域7における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学教育企画開発委員会と医学教育評価委員会を独立した組織とし、医学教育企画開発委員会にすべての学年における学生の代表を含むように、細則を変更した。

各委員会から挙げた問題点のモニタを医学教育情報分析室で行うように、医学教育情報分析室の活動を軌道にのせることが今後の課題である。

### 7.1 プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 教育プログラムの教育課程と成果を定期的にモニタする仕組みを設けなければならない。(B 7.1.1)
- 以下の事項について教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施しなければならない。
  - カリキュラムとその主な構成要素 (B 7.1.2)
  - 学生の進歩 (B 7.1.3)
  - 課題の特定と対応 (B 7.1.4)
- 評価の結果をカリキュラムに確実に反映しなければならない。(B 7.1.5)

#### 特記すべき良い点（特色）

- 教育プログラムをモニタし評価するために「医学教育情報分析室」と「医学教育評価委員会」が設立されている。



## 改善のための助言

- ・試験成績の分析だけでなく、卒前医学教育アウトカムの達成の観点から、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩や課題の特定と対応について、教育プログラムの評価を行うべきである。
- ・「医学部教育情報分析室」と「医学教育評価委員会」の活動を実質化して教育プログラムの評価を行い、その結果を「医学教育企画開発委員会」で検討し、カリキュラムに確実に反映させるべきである。
- ・教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム立案を行っている医学教育企画開発委員会と、教育プログラム評価を行っている医学教育評価委員会の構成委員を見直し、委員長の変更を行った。これによって、プログラム評価を行う組織と、カリキュラム立案と実施を行う組織を独立させた。

また、「医学教育企画開発委員会」と「教務委員会」の業務内容に重複がみられるため、「医学教育企画開発委員会」と「教務委員会」の業務内容の識別化について継続して審議することとした。

今後は、それぞれの組織の活動を実質化し、医学教育情報分析室がもつ教学データを用いて教育カリキュラムのモニタを行い、PDCA サイクルを回していく。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 26 大分大学医学部医学教育評価委員会内規
- ・資料 5 大分大学医学部医学教育企画開発委員会内規
- ・資料 1 令和 4 年度第 2 回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料 27 医学教育評価委員会構成員名簿
- ・資料 28 医学教育企画開発委員会構成員名簿

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応しなければならない。(B 7.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・授業評価アンケートだけでなく、教育プログラム全体について、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

学生からのフィードバックを得るために、これまで医学科4年生および5年生の代表のみが参加していた医学教育企画開発委員会にすべての学年の代表を入れるよう、規約を改訂した。

Campus Square での学生からの授業評価を確実にできるように、授業の Moodle コースにアンケート URL を記載し、最後の授業で確実にアナウンスを行うこととした。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 26 大分大学医学部医学教育評価委員会内規
- ・資料 5 大分大学医学部医学教育企画開発委員会内規
- ・資料 1 令和4年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料 18 令和4年度第2回医学教育評価委員会議事概要
- ・資料 29 令和4年度第2回教務委員会議事概要

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発すべきである。(Q 7.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・教育プログラムに関する教員と学生からの系統的なフィードバックを分析し、教育プログラムを開発することが望まれる。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学教育企画開発委員会において、学生から基礎医学における病理学について、臨床をある程度学んだあとに、病理学各論がある方が理解が深まる、という意見があった。基

礎医学部会で病理学各論の在り方について検討を行うこととした。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 1 令和 4 年度第 2 回医学教育企画開発委員会議事概要

## **7.3 学生と卒業生の実績**

### **質的向上のための水準：部分的適合**

医学部は、

- 以下の項目に関連して、学生と卒業生の実績を分析するべきである。
  - 背景と状況 (Q 7.3.1)
  - 入学資格 (Q 7.3.2)
- 学生の実績の分析を使用し、以下の項目について責任がある委員会へフィードバックを提供すべきである。
  - 学生の選抜 (Q 7.3.3)
  - カリキュラム立案 (Q 7.3.4)
  - 学生カウンセリング (Q 7.3.5)

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・背景と状況、入学時成績に関して学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
- ・学生の実績の分析を使用し、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生カウンセリングの制度として、これまでチューター制を導入し、定期的に学生の成績開示を含めた学生面談を行うこととしていたが、面談を受けていない学生が多かったため、少なくとも年 1 回はチューター面談を行い、Campus Square に面談記録を残すことを教授会で周知した。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 30 令和 4 年度第 4 回教務委員会議事概要

## 7.4 教育の関係者の関与

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 広い範囲の教育の関係者に、
  - 課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可するべきである。(Q 7.4.1)
  - 卒業生の実績に対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.2)
  - カリキュラムに対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための示唆

- 広い範囲の教育の関係者に、課程および教育プログラムの評価結果の閲覧を許可することが望まれる。
- 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績、カリキュラムに対するフィードバックを確実に求めることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育企画開発委員会および医学教育評価委員会の構成員を見直し、委員長の変更を行うとともに、医学教育企画開発委員会にすべての学生の代表を入れるとともに、他の医療職の代表として看護学科の教員を委員に含めることについて検討していくこととした。それによって、より広い範囲の教育の関係者からのフィードバックを受けることができることが期待される。今後は卒業生が所属する医療機関から卒業生の実績に対するフィードバックを受けるシステムの構築が必要である。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 26 大分大学医学部医学教育評価委員会内規
- 資料 5 大分大学医学部医学教育企画開発委員会内規
- 資料 27 医学教育評価委員会構成員名簿
- 資料 28 医学教育企画開発委員会構成員名簿

## 8. 統轄および管理運営

領域8における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学教育に対する学生からの意見を聴取するとともに、寄せられた意見の対応の進捗状況について報告を行った。外部資金や学内の戦略経費に申請し、共用試験の公的化に伴い、基本的臨床手技を学ぶためのシミュレータ等を整備した。医学教育統括会議において大分県、大分県医師会及び医学科同窓会と医師の働き方改革、地域医療構想や医師・診療科の偏在等の諸問題について、大学と一緒に大分県の医療をよりよくしていくことを確認した。

教学におけるリーダーシップの評価を定期的かつ確実に遂行することが今後の課題である。

### 8.1 統轄

#### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 統轄する組織として、委員会組織を設置し、下記の意見を反映させるべきである。
  - 主な教育の関係者 (Q 8.1.1)
  - その他の教育の関係者 (Q 8.1.2)
- 統轄業務とその決定事項の透明性を確保するべきである。(Q 8.1.3)

#### 特記すべき良い点（特色）

- なし

#### 改善のための示唆

- なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育統括会議 (MEDIC) の下の、医学教育評価委員会と医学教育企画開発委員会を定期的に開催し、医学教育に対する学生からの意見を聴取するとともに、寄せられた意見の対応の進捗状況について報告を行った。

#### 改善状況を示す根拠資料

- 資料1 令和4年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要
- 資料18 令和4年度第2回医学教育評価委員会議事概要

## 8.2 教学のリーダーシップ

### 基本的水準：適合

- 医学教育プログラムの策定と管理に関する教学における執行部の責務を明確に示さなければならない。(B 8.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための助言

- なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

国立大学法人大分大学学長選考会議規則及び国立大学法人大分大学長の業績評価に関する申合せに基づき、国立大学法人大分大学学長選考会議が国立大学法人大分大学長の業績評価を実施し公表した。また、学部長については、業務執行状況報告書と面談により学長が業績評価を実施している。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 31 国立大学法人大分大学長の業績評価について
- 資料 32 学部長の業績評価の結果について

## 8.3 教育予算と資源配分

### 基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを遂行するための教育関係予算を含み、責任と権限を明示しなければならない。(B 8.3.1)
- カリキュラムの実施に必要な資源を計上し、教育上の要請に沿って教育資源を分配しなければならない。(B 8.3.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

## 改善のための助言

- ・なし

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

学内経費では、カリキュラムを遂行するための教育関係予算を計上した。

また、大学改革推進等補助金（ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業）に申請し、2023年度の共用試験の公的化に伴い、基本的臨床手技を学ぶためのシミュレータを整備するとともに、学内の令和4年度学長戦略経費（教育改革推進プロジェクト）に「感染症医療人材養成のための実践的教育推進プロジェクト」申請し、呼吸音聴診シミュレータ等の設備を整備した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 33 ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業実績報告書
- ・資料 34 令和4年度学長戦略経費（教育改革推進プロジェクト）成果報告書

## 8.4 事務と運営

### 基本的水準：適合

医学部は、

- 以下を行うのに適した事務職員および専門職員を配置しなければならない。
  - 教育プログラムと関連の活動を支援する。(B 8.4.1)
  - 適切な運営と資源の配分を確実に実施する。(B 8.4.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

## 改善のための助言

- ・教育プログラムと関連の活動を支援する事務職員を十分配置すべきである。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学教育センター所属の非常勤職員を公募し、令和5年5月1日付で任用することとした。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 8.5 保健医療部門との交流

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流を持たなければならない。(B 8.5.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 大分県医師会会長や大分県福祉健康部長などが参加する「医学教育統括会議（MEDIC）」を設置し、地域医療の充実・発展について議論している。

### 改善のための助言

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和4年度第1回医学部医学教育統括会議（MEDIC）を開催し、「医学部の理念」、「医学教育分野別評価の受審について」「研修医・専攻医の年次推移と地域に定着する医師の育成」、「学外委員からの意見と要望等」等について審議し、医師の働き方改革、地域医療構想や医師・診療科の偏在等の諸問題について、大学と一緒に大分県の医療をよりよくしていくことを確認した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料2 令和4年度第1回医学部医学教育統括会議（MEDIC）議事概要

## 9. 継続的改良

### 基本的水準：適合

医学部は、活力を持ち社会的責任を果たす機関として



- 教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定しなくてはならない。(B 9.0.1)
- 明らかになった課題を修正しなくてはならない。(B 9.0.2)
- 継続的改良のための資源を配分しなくてはならない。(B 9.0.3)

### **特記すべき良い点（特色）**

- なし

### **改善のための助言**

- 学修成果、評価ならびに学修環境の見直しを定期的に行うべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

1 巡目評価を受けて、学内での自己点検評価に対応する組織の見直しを開始した。1 巡目受審では、領域ごとに各講座の教授が担当するように、人員を配置していたが、継続的な改良を行うにあたり、教育に関わる若い人材の育成が必要との観点から、各講座の准教授・講師等を中心に、適性を考慮して人員配置を行った。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料 35 令和5年からの JACME 担当表